

ロズバーク
日本人
收容所
知事局
三月十六日
火曜發行
オ一七二号

日本軍北濠攻略作戦

マックアサー司令官敬告
濠洲司令部異常に緊張

濠洲聯合軍本営附國際通信社十五番
報道に據れば、日本軍の濠洲侵略は
確實である事をマックアサー將軍が警
告したと傳へ、最可危険なる敵として
陸地軍はダーサン軍港敵軍備團の北濠
沿岸であることと附言したといふ。
濠洲司令部は、右マックアサーの再度の
敬告は、以前彼の敬告が、唯濠洲
本土を侵略せんとするに對し、今回
は北濠の危険なる事を具體的に發
表したる爲に異常なる緊張振りを
見せ始めた。消息通は一般に悲觀
的なる觀測を爲し、事あるが、侵入軍
も亦、相當の犠牲を出さざらうと評
し、聯合軍今春の国防クライマックス
に至ると騷然たる物情を示してゐる。

カトリック將軍が仲介

シラウ、デゴール兩頭握手か

倫敦U.P.十五日通信は北阿の事情を如左
傳へた。曰く、シラウ將軍は近くデゴール將
軍を招きて、佛領北阿の統一を計るべき日
を代表したと共に、デゴール側の情報部長は
右の招きにデゴールも應ずる心持があると
いふ。尚、シラウとデゴールとの間を取り
持つてゐるコンタクトマンは、現リビエ進駐
デゴール軍司令部にジョーゲ、カトリック將軍
である。

カーゴフ終に陥落

モスコフ政府は終に、カーゴフ拋棄の事實を公
報し、茲に數日未決速に決つてゐたカーゴフ
ロズバークキャンプ生活を早十ヶ月
短かに冬は一躍初百々となつた。夫婦
同居認可が成立するなり、
樞密院も動かし、せんと腰を据へてアス
ハラでも植えやうかなと、パイプを煙う
すんた、さては今から遅くは無い
再審と決めて、海軍の風を一ヶ月前
吸ひ戻さうとする人々もある。
スルト、又一方では、二度、入浴してま
した、一千五百名の同胞を心待ちにして十
人十色の空想を描いてゐるが、中には又、
可憐な今度の大統領候補者だと心
かかちりした紳士も見受けられる

奪還説は重書された。又、モスコフ政府は次
の発表をした。南露ウクライナ方面は赤露路
軍を思ふ如くならせりし、又モレンスク方面は
デモンエンコ將軍連戦連勝の成績を揚げ
てゐる。尚、カーゴフ攻略の独逸軍は廿五万

日本人を民政下に置く

デューブツト中將の聲明

にして更に十方を増さんとすといふ。
デューブツト中將は三月十五日夜次の聲明を發
した。曰く、今日日本人移動の義務を完了
した。以後日本人に關する一切の権限を
戦時リロケーション監督官に移せば、
右デューブツト將軍は、米國々防西軍司令
官として西部北阿の米國 防備軍を司
令して居るが、約二十万、四百二十名、日本人を
シリタリ、ソーンよりエバキエトした所、其中
に二世市民を含む居たる爲、市民權侵害
問題起り、今迄一ヶ年餘り紛擾を重んじ、
居たことである。戦時リロケーション監督官
は民事法に據り日本人系民族に對して
るから、即日本人に對し、日本よりは日常生活に
軍令を適用せずして一般米人同様、戦時
民法の下に置かれる事が復活したといふ。

ホプキンス不評判

エルバソ方面の輿論

エルバソイハス後、本日社説には、
を排す、記事を掲げて、曰く、
を排斥するが如き態度又は言論は甚だ
低級にして必要なるに似たりと雖も、
又が自發的に白聖館より他に移す可
を勧告す、と述べた。

(註)ホプキンスは、大統領ロズバークの
側を離れ、男であるが、ハムに給料を貰
つて居る、又、彼の反対者は、事毎に彼を

批難し、大統領に果敢と及ぼすが如き事
屢々ありしを諷して、右の輿論を起し
たといふ、あうと観られる。

スパーワ、パットン兩將昇格

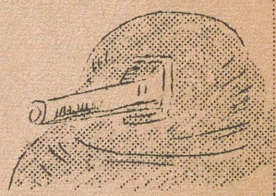
大統領は最近スパーワとパットン兩將を
推薦して昇格を命じた。三月十六日より
兩將共、中將に進級した。スパーワ中將は、
アフリカ攻略聯合國第三軍司令官長官、又、
パットン中將は先鋒にして前大戦には、パレング
將軍と共に國難に奉仕する處あり、兩將
とも目下阿戰線に在り

カイサーの造船難

C.S.O.とA.F.L.の管轄争
ヘンリー、カイサーの造船に支障を生じ、
大原因はC.S.O.とA.F.L.との管轄争の
が原因である。元来此、両派労働者
リンが報じて居る。元来此、両派労働者
争ひは傳説的のものである。昨冬大統領は、
労働パーキンス戰時労働局代表と共
に仲裁的交渉の末、十二月一日及び日に
今晚の英語夜学校大角先生と
は先生病氣のため休校し、

兩派平和協約締結された。然るに最近左協約
文中に、
理論の上平和協約と一權威無き事判明した。
爲に前大角先生、
這に進捗したが、A.F.L.のフレイが此協約に署名を
を拒絶した。根本的にA.F.L.側の全固各
組合の承認を怪れば、現在の代表者には代
表權無しと判明し、一問題を生起して居る

我軍の敵は頑強



紐育十三日発

合同通信外交記者

独逸は頑強、多策の敵である。將に其本土に於て戦はんとなす。

一般に独逸空軍は到底我が敵に非ずと信ぜらるゝも然らず。独逸現有空軍戦力は五、

六千機、毎月の製造能力は三千機、伊太利は毎月六百機、

味方の製造能力は、米國毎月一万機、露國、英、各毎月五千五百機、亦も、米國の現有

機は世界各所に散在し、又濠洲、支那、歐

洲へも分配せざる可からず。

英國筋には、聯合側は毎月一万五千機を製造せざれば全勝の望を無しといふ

も、此数すの猶少きの感あり。

陸上戦に就ては、敵軍は侮り難し。一時独逸は九百万人の外に伊國其他の隨

従國軍を擁したるを以て能く、全歐を保有し得べしと見られたるも、幸に其三人は露國に於て戦没せり。独逸の現有戦力は五六百万人なる可し。即ち用戦以來独逸軍の死傷数は約五百万人に止る可し。

No. 48

AT DAWN

(1) We get up at six o'clock when it is still quite dark. (2) After washing my face, I go to have my breakfast. Then it begins to dawn. (3) When the eastern sky begins to turn grey, the scenery here is magnificent. (4) There are no trees except cactuses and sagebrushes in the wide plain. It is like an ocean. (5) The hills in the distance are like islands. (6) The smoke from the train that crawls along the horizon can be easily mistaken for the smoke from a steamer. (7) Words can not describe the beauty of the bluish sky and the picturesque colors of the morning clouds. (8) I feel refreshed when I look at the brilliant and bright colors of the eastern sky.

今聯合軍の面する敵軍は四個年の戦場を経験する兵士にして、敵の戦線は次第に短縮せられ、独逸有効に動員せらる可し。然し聯合側にも利兵はあり、即ち敵が一四二七に有したる精兵を露國にて失ふ、又、セ方は今ニシアに於て戦場に我軍に属する人とする運命に在り。又、日夜、伯林其他の要所を我軍に空爆せしめて人心恟々たる上に、軍人も亦一年以上の勝利又勝利に似ず、今や敗北に次いで敗北を以てし、軍規、又昔月の如くふる。

佛教講座

(筆記用員持たす)

三月十六日(土) 午後七時半

才三中队 食堂にて

講話 正信偈 才三講 什岡隆英師

◎ 養良雜講習會

今十六日(土) 午後七時半

才三中队 宗教堂にて 講師 古生美男氏

ユツカ吟社報 俳句

春、暖や手入ぬ急が野々木園 千又万
老、暖や眠りたぬたるエの艶地 為風
暖かや沙漠の風もやわらかに 孤人
手入ぬようせせせ稜苔下の里み哉 千又万
魁、サマ市に出でサリサ波稜草 緑其口
土の香も含みし昔よせ波稜草 青柳

夜明け (四八)

一、我々は六時に床を離れるがその頃はまた相當暗い
二、顔を洗つて朝食に出掛ける時分に夜が明け始める
三、東の空が白む頃、この景色は昔見た事は無い
四、広々とした野原にはシヤホテンセルフラワシの外、樹立もなく、なだらかな海のゆうやがある
五、遠方の山々は恰か毛島かと思はれる
六、地平線の彼方に、雲が如く、汽車の煙は汽船のそよと見まがう程である
七、青み切つた空をまよと、給日も見るやうな朝霞の色、形をなす言はずも無い
八、目やみるはかりな色、やがて東の空を、空を見るときは、くしい気が体中に流れる。

次回課題 『春眠』 『春風』

〇X切十八日、土中隊才三中队 官田宛

〇 家茶同居二行を送る

春風や晴しう旅を送る野辺

ユツカ吟社代表 山川十一

◎ タローの幽霊出でず

市俄古十五日(在(因際通信)) 有名なる市俄古の刑事辯護士タローは、タローの幽霊は生前の十年前に其友人と結ぶる約束を履行しなかつたこと、今、又、死なされた。其約束といふのは、タローは一九三二年に手品師ホワード・サーストンと魔術術に興味を有するデトロイト市の商人クラウド・ノールと約束し、三人の中で最初死なれた者が他の二人と通信をしやうといふ約束を結んだ。其時タローが先死に、昨日ノールは先の約束を踐んで、チヤクソンの遺孀に同行した。それは此橋の下に、タローが死骸を焼いた灰を撒布した事であった。ノールは其手にタローの遺骸板を持ち、タローの霊に向つて、遺骸板を水の中へ打ち落せよ、と命令した。遂にタローの幽霊は現はれ、来た事があった。之より以前にもノールは四回、其旧友タローの幽霊を、田介より呼び出さうと試みたけれど、一回とも幽霊は出て来なかつた。

夢に見たのを今、正夢に一つ小穴の顔と顔(家茶同居表現)